

ずいそう

インドの石けん

三代 愛



昨年、一週間と短い期間でしたが叔父の住むニューデリーと、その近隣2都市を旅しました。

思い込みというのは恐ろしいもので、3食カレーが続いても全く飽きることのないカレー好きの私は、インドに到着すれば、空港からカレーの臭いが漂い、道は象が荷物を運んでいるのだろうと想像していました。

ところが、ニューデリーの空港に到着し、迎えに来た叔父の案内で、外に出た途端に、無秩序に鳴り響く車のクラクションとガソリンの臭い、そして薄暗い明かりの中、刺すような人々の視線が四方八方から投げつけられ、圧倒されました。

ベテランのインド人ドライバーによる運転で、空港から叔父の家まで車で移動しましたが、ジェットコースターの方が100倍安心だと感じるほど、スリリングなものでした。

車線変更は左・右・後方の確認無く（前しか見えない）、ウィンカーを使用することなく突然実施されます。車線は完全に無視され、3車線道路は5車線道路と化し、隣の車までわずか20~30センチの近さにあるところを、さらに隣の車がハンドルを切って近づいてきます。クラクションを鳴らすのは、やむを得ないと、すぐに察することが出来ました。

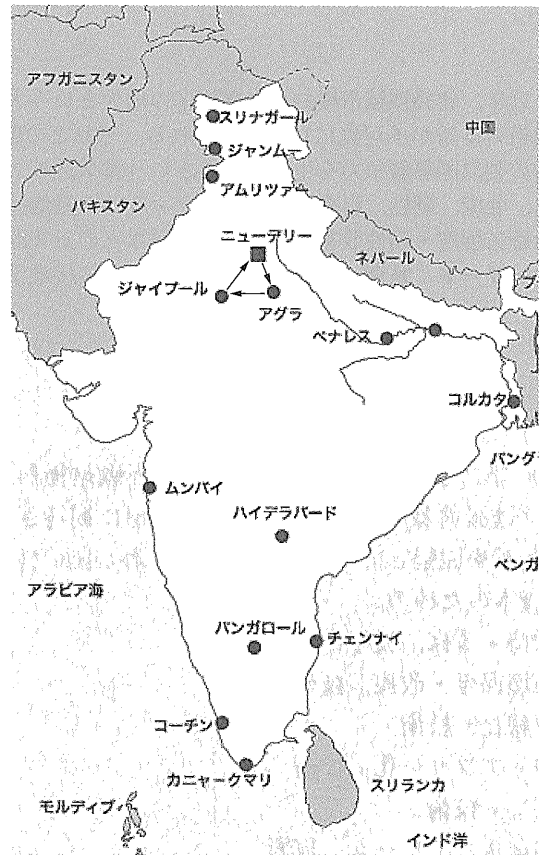
さて、ここで旅のエピソードをご紹介します。ニューデリーから、アグラという都市を経て、ジャイプールという都市へ向かう道中の事です。

ニューデリー、アグラ、ジャイプールはそれぞれ約200キロ~300キロの距離があり、ニューデリーを頂点に、ちょうど三角形に結ぶことができます。この三角形の底辺にあたる中間地点（アグラとジャイプール間）で、運悪く道路に落ちていた鉄の棒が車が踏んでしまいました。

「ガガー」という音と、足に響く振動をはっきりと感じたのですが、車は何事も無かったように進んで行きます。ところが、しばらく走行していると、ガソリンの臭いが鼻を突き、その臭いが離れなくなってきてしまったのです。

後方を振り返ってみると、車からガソリンが漏れ、はるか後方まで、漏れたガソリンが点々と続いているではありませんか。

インド人のドライバーにその旨を告げ、道路脇に車が止まりました。しばらく車の下に潜っていたドライバーは、この様子を見物していた現地の子供にチップを渡し、カレーのルーのような色と形をした洗濯用の石けんを手に入れました。そして、口笛を吹きながら、粘土状にこね上げた洗濯石けんを、穴の空いたガソリ



ンタンクに埋め込み、応急処置が完了しました。

この後不思議なことに、ガソリンが漏れることなく、高速道路を含め残りの約300キロ近い道りを車は走り、旅は無事に終わりました。

日本へ帰国後、このエピソードを当社のベテラン整備士に話しますと、笑いながら「昔は、日本でも、石けんを応急処置していた」とのこと。

他国をもって自国を知ったと言ったら少々おおげさですが、かつて日本もそうであったように、物資が少ない中で知恵を活かして暮らす人々を垣間見た気がしました。

ところで、あの応急処置ですが、あれで修理は完了だったそうです。ですから、いまだにあの車のガソリタンクの穴は、洗濯石けんでは充填されているのだそうです。ちなみに洗濯石けんは、応急処置に使えるそうですが、ホテルにある手洗い用の石けんは、応急処置には使えないそうですから。念のため。